

実践事例5【交流活動の工夫（めざす児童像と教師の役割の明確化）】

第4学年 社会科「きょう土をひらく(さまざまな用水のくふう)」

【単元の目標】

○用水を開発した先人の働きに関心を持ち、その働きや努力・工夫によって地域の人々の生活が向上したことを理解するとともに、先人の努力によって発展してきた地域に対する誇りや愛情を持ち、地域のよりよい発展について考えようとする。

【中心となる評価の観点】

(思考・判断・表現)

・地域の人々の生活の向上について、人々の願いと努力、先人の働きや工夫を関連づけて表現している。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p>導入</p> <p>図うか！これをがんばるぞ！</p>	<p>通潤橋ができる以前の白糸台地の様子や実際に通潤用水周辺を調べたことを思い出す。</p> <p>めあて：通潤橋と用水路ができて、人々のくらしはどのように変わったのでしょうか。</p>
<p>展開</p> <p>図よし！やってみるぞ！</p> <p>図たえ合おう！</p>	<p>今まで自分が調べてきたことから、人々のくらしや土地利用の変化についての考えを出し合う。</p> <p>用水ができたことで、田畑が広がったね。</p> <p>水の心配がいらなくなったし、食べ物の心配がなくなったよ。</p> <p>地域の人々が通潤橋のそうじをしています。今も地域の人々が感謝して使っていますね。</p> <p>この地域にとって、通潤用水はなくてはならないものなんだ。</p> <p>用水路ができて、田の面積は3倍以上に増え、米がたくさん収穫できるようになりましたね。</p>
<p>まとめ</p> <p>図れからのわたしたち</p>	<p>現在の通潤橋のまわりの様子について話し合う。</p> <p>今も観光客がたくさん通潤橋を見に来ているね。</p> <p>人々の願いや努力によって、通潤橋と用水路が作られ、白糸台地には水田が広がり、人々の生活はよくなった。</p>

【単元の成果○と課題●】

- 地域の人々の生活の向上について、調べたことをもとに、地域の人々の願いや努力、布田保之助の働きや工夫を関連付けて考えることができた。
- 現在の通潤橋の様子についても、資料をもとに推測して考えていた。
- 事前の調べ学習が、願いや苦労を考えたり思いついたりすることに生かされ、地元で働く人の生き方に学ぶことができた。
- なぜそう思うのか、理由を明確にして意見を述べたり、相手に分かりやすく説明できるように適切な言葉や資料を選んで使っていけるようにしていきたい。

実践事例 6 【交流活動の工夫（交流の方法と場づくりの工夫）】

第3学年 理科「豆電球に明かりをつけよう」

【単元の目標】

○電気の通り道について興味・関心を持って追究する活動を通して、電気を通すつなぎ方と通さないつなぎ方、電気を通す物と通さない物を比較する能力を育てるとともに、それらについての理解を図り、電気の回路についての見方や考え方を持つことができるようにする。

【中心となる評価の観点】

(課題追究力)

・電気を通す物と通さない物の違いを考え、表現することができる。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p>導入</p> <p>☐うか!これをがんばるぞ!</p>	<p>電気を通す物と通さない物を調べ、みんなに伝え合おう。</p> <p>ブラックボックスの中には何があるのだろうか。</p> <p>めあて：電気を通す物・通さない物にはどんなものがあるだろうか。</p> <p>予想したことを実験で確かめる。</p> 
<p>展開</p> <p>☐よし! やってみるぞ!</p> <p>☐たえ合おう!</p>	<p></p> <p>実験結果から考えたことを交流する。</p> <p>アルミ缶は電気を通したけど、色が付いているところは通さないよ。</p> <p>はさみはつくところとつかないところがあるよ。</p>
<p>まとめ</p> <p>☐れからのわたしたち</p>	<p></p> <p>クリップと針金、10円玉、1円玉が電気を通したよ。</p> <p>ノート、割り箸、ガラスコップ、紙コップが電気を通さなかったよ。</p> <p>電気を通す物はアルミ缶やアルミホイルがある。通さない物は紙コップや割り箸だった。</p>

【単元の成果○と課題●】

○予想の場面で自分の考えを出し、一人一人実験を行い、実感したことを大切に自分の考えをまとめるようにした。また、ペアやグループで話し合うなど形態を工夫したことで、考えを交流しやすくなった。互いに豆電球を点灯させたものを提示し、意見交換を進める姿を見ることができた。

●ペアやグループで意見交換した時、練りあいの時間が足りない班が出てしまった。また、全体討議の時間では、時間確保とともに焦点を絞った話し合いを行うと効果的だった。

3 学校と家庭・地域社会が連携・協力できる体制づくりや取組の計画的・継続的実践（仮説3）

（1） 実態把握

研究を進めるにあたり、課題を整理するため、児童のふるさとに対する意識面の実態把握を継続的に行ってきた。ふるさとへの関心が高まり、地域での行事に参加する児童が増えてきた。（p19参照）

（2） 家庭・地域との連携

① 専門性を生かした授業への協力

「ふるさと学習」をテーマに各学年の内容等の見直しを行い、生活科や総合的な学習の時間を中心に積極的に地域に出かけて話を聞いたり、体験したりしてきた。また、他教科等で関連した内容を学習する時にも、G Tとして専門性を生かした説明や児童からの質問に答えてもらうなど、家庭・地域との連携を計画的に取り組んできた。（実践事例7）



【ブルーベリーの育て方（3年）】

② 児童からの働きかけ・発信

これまでG Tに来校してもらったり児童がG Tのところに出かけて行ったりして学習を深めてきた。今年度5年生は、児童が学習したことを地域の方に発信する活動を行った。児童が身の回りにある課題について調べ、その解決策を提案書にまとめ、実際に地域の代表者に説明し、意見を聞く活動を行った。児童と地域社会とが双方向に情報を発信しあう学習に取り組んできた。（実践事例8）

（3） 学習環境の整理・充実

① 人材バンクの可視化と活用

素材を地域に求め、人・自然・文化との出会いを大切にして課題を設定・追求する上で、G Tの存在がとても重要になる。G Tを活用することで児童の課題追求場面を深めることができる。そこで「人材バンク」の充実と可視化を進めてきた。人材バンクに登録していただいた方を右のようなカードに作成した。本年度は、既存の人材バンクに新しく自然観察、地域の歴史、林業、水道管理などのG Tを追加し授業で活用することができた。（実践事例9）



【人材バンクカード】

実践事例7【家庭・地域との連携(専門性を生かした授業への協力)】

第3学年 総合的な学習の時間「蘇陽をこん虫パラダイスにしよう！」

【単元の目標】

○自分の課題をもって生き物調べに取り組むことを通して、蘇陽の環境を見つめ、蘇陽のよさに気付くことができるようにする。

【中心となる評価の観点】

(共生力)

・自分の住む地域の自然の様子やそのよさに気付くことができる。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p>導入</p> <p>図うか！これをがんばるぞ！</p>	<p>なぜ、モートンイトトンボは、熊本では蘇陽にしかいないのだろうか？</p> <p>めあて：モートンイトトンボが熊本では蘇陽にしかいない理由について、調べたことをもとに予想を出し合おう。</p> <p>蘇陽は自然がいっぱい、えさになる食べ物もたくさんあるからじゃないかな。</p> <p>日当たりがよくて、蘇陽にはわき水が出る所があるからじゃないかな。</p> <p>天敵がないからじゃないかな。</p>
<p>展開</p> <p>よし！やってみるぞ！</p> <p>図たえ合おう！</p>	<p>調べたことをもとにして、自分の予想とその理由を考える。</p> <p>予想したこととその理由を出し合う。(グループ→全体)</p> <p>G T の話を聞いて確かめる。</p> <p>みんなよく考えたね。みんなの予想通り、蘇陽には、きれいなわき水が湧く所がたくさんあって、わき水が流れ込む沼地やお米作りを休んでいる田んぼも残されているからです。でも、実は今、数が減ってきているんですよ。だから、保護区を作って守っています。</p> <p>ぼくの家付近にもわき水が出るところがあります。家では水道もあるけど、そのわき水も引いて使っています。</p> <p>蘇陽っていいな。私もモートンイトトンボを守っていきたくて思いました。</p>
<p>まとめ</p> <p>図れからのわたしたち</p>	<p>学習の感想を発表する。</p> <p>次時は、モートンイトトンボを探しに行こう。</p>

【単元の成果○と課題●】

○理科の学習内容と関連付けたり、見つけた昆虫を実際に飼うために調べ学習をしたり、町立図書館の司書の方に調べ学習の資料提供を依頼したりしたことで、意欲・関心が高まり主体的に学習に取り組む姿が見られた。また、探究的・協同的な学習活動を大切にして自分たちが収集した情報をもとに類推したり、矢部郷自然観察会の藤吉勇治先生をG T に招いて、資料を活用しながら検証したりして課題を解決していったことで蘇陽の環境の豊かさについて具体的にとらえることができた。

●児童の考えを把握しやすくするためのシートを準備しておくことで、グループづくりや発問・手立ての工夫もしやすくなる。また、伝え合いの場面は、友達の発言の聞き方、反応の仕方なども日頃から意識してできるようにしておきたい。

実践事例 8 【家庭・地域との連携（児童からの働きかけ・発信）】

第5学年 国語科「明日をつくるわたしたち」

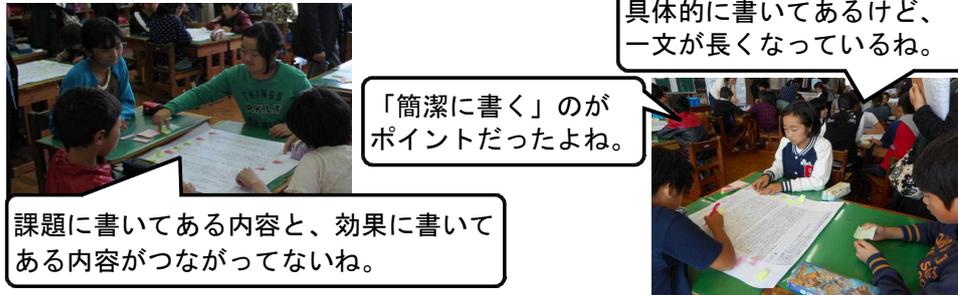
【単元の目標】

- 自分たちの身の回りにある課題について調べ、解決のための提案書を書くことができる。
- 話題を決めて、収集した知識や情報を関連付け、互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合うことができる。

【中心となる評価の観点】

（話す・聞く）

- ・ 他のグループの提案書を読み、説得力を増す提案書になるように、質問や感想を伝えることができる。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<p>導入</p> <p>☑うか！これをがんばるぞ！</p>	<p>他のグループの提案書を読み、説得力を増す提案書になるよう交流しよう。</p> <p>めあて：提案書を読み合い、説得力を増すようにアドバイスをしよう。</p> <p>アドバイスの視点を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現状や問題点を整理し、提案の理由を明確に書いてあるか。 ・ 提案の内容は、なるべく具体的なものになっているか。 ・ 提案したことが実現するとどんな効果があるのかをしめしているか。 
<p>展開</p> <p>☑よし！やってみるぞ！</p> <p>☑たえ合おう！</p>	<p>グループごとに読み合い、アドバイスを書く。</p> <p>「簡潔に書く」のがポイントだったよね。</p> <p>具体的に書いてあるけど、一文が長くなっているね。</p> <p>課題に書いてある内容と、効果に書いてある内容が繋がっていないね。</p> 
<p>まとめ</p> <p>☑れからのわたしたち</p>	<p>グループごとに、もらったアドバイスを整理する。</p> <p>たくさんアドバイスをもらったから、説得力のある提案書が書けそうだね。</p> <p>もらったアドバイスを清書にいかそう。</p> 

【単元の成果○と課題●】

○他のグループの提案書を見たり、アドバイスをもらったりしたことで、もう一度自分たちの提案書を見直し、説得力を増す提案書を書こうという意欲が高まった。

○提案書を自治振興区の会長に持って行き、感想や意見を聞いたことで、より地域のことについて関心を抱いたり、地域行事への参加を意識したりするようになった。

○地域へ発信することにより、子ども達の学習へのモチベーションを高めることができた。

●地域の人への聞き取りや、中間発表で地域の人に見てもらおうといった活動を取り入れると、より探究的で活発な活動ができたのではないかと考える。

実践事例 9 【学習環境の整備・充実 (人材バンクの可視化と活用)】

第4学年 社会科「水はどこから」

【単元の目標】

○水源からの給水の方法に関心をもち、自分の知りたいことをまとめることを通して、その仕組みや働き、働く人の願いや努力について考えることができる。

【中心となる評価の観点】

(思考・判断・表現)

・既習の内容をもとに、給水の仕組みを自分なりに考え、GT の話から、働く人々の苦労や工夫に気付き、自分なりの言葉で分かりやすく文章にまとめて伝えている。

学習過程	授業の流れと「ふるさと学習」に関わる児童の反応
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="background-color: #f96; color: white; padding: 2px;">導入</p> <p style="font-size: small;">☒うか!これをがんばるぞ!</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="background-color: #f96; color: white; padding: 2px;">展開</p> <p style="font-size: small;">☒よし! やってみるぞ!</p> <p style="font-size: small;">☒たえ合おう!</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="background-color: #f96; color: white; padding: 2px;">まとめ</p> <p style="font-size: small;">☒れからのわたしたち</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>2種類の水の様子を比較させることで、原水から水道水に至るまでには、浄水や配水の働きがあることに気付かせる。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="background-color: #f96; color: white; padding: 2px;">めあて：水を送る仕事をさぐる</p> <p>今まで自分が調べてきたことから、給水の仕組みについて予想し、それぞれの考えを出し合う。</p> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: flex-start;"> <div style="width: 45%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>山にはわき水が出るから、飲み水は山の上から送られると思うよ。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>GT の話を聞く。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>下山の水源から、ポンプで配水池に上げて、みんなの家や学校に配水しています。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>断水の時も、がんばって修理してくれてたんだ。</p> </div> </div> <div style="width: 50%;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">  <p>きれいな水に、どこで変わっているのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>安全な水をつくって、送ってもらってるんだな。実際は、どんなしくみになってるのかな。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>夜や休みの日も交代で管理してもらってるんだな。</p> </div> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>さらに知りたいことを質問する。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; background-color: #e0ffe0;"> <p>次回は実際に配水池に行って、給水の様子を見てみよう。</p> </div>

【単元の成果○と課題●】

- 事前に各地の給水方法を調べたことで、自分たちの地域の給水方法について予想を立てることができ、学習を深めることができた。
- 事前の調べ学習が、当日のGTの聞き取りについて理解したり、願いや苦労を考えたり思いついたりすることに生かされ、地元で働く人の生き方に学ぶことにつながっていった。
- GTから貴重な体験を伺ったり、多くの資料等を提供して頂いたりして、大変有意義な学びとなった。今後も他の単元でも人材バンクを活用していきたい。
- 理由を明確にして意見を述べたり、相手に分かりやすく説明したりできるように適切な言葉を選んで使えるようにしていきたい。

Ⅲ 研究のまとめ

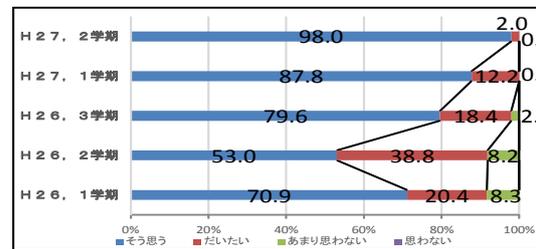
1 結果

(1) 児童・保護者の意識調査の結果から (①H27年度全国学力・学習状況調査回答結果：抜粋掲載H27.4実施 ②～④学校アンケート)

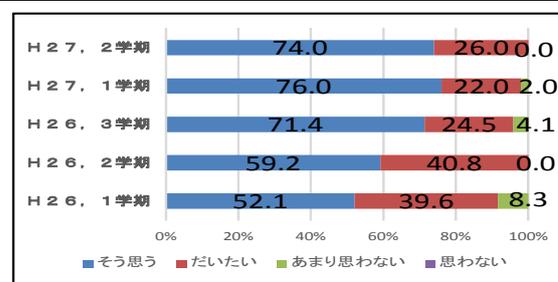
①地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか (6年)



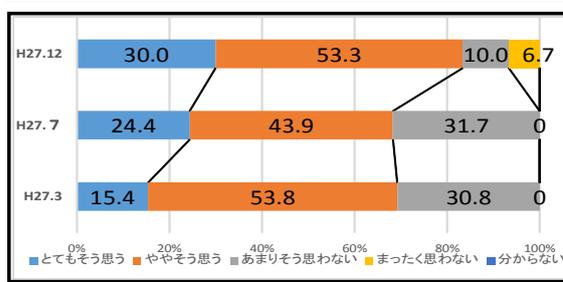
②蘇陽のことが好きですか (3年以上)



③総合的な学習の時間で学習したことは、普段の生活や社会に出た時に役立つと思いますか (3年以上)

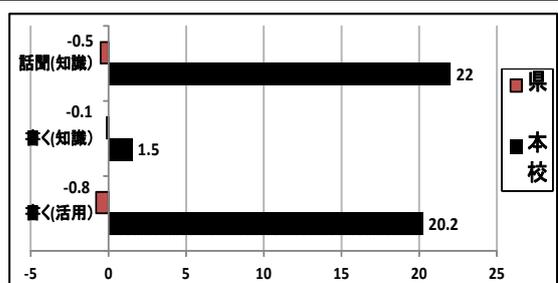


④以前に比べ児童が地域の行事に出かけるようになった。(保護者対象)



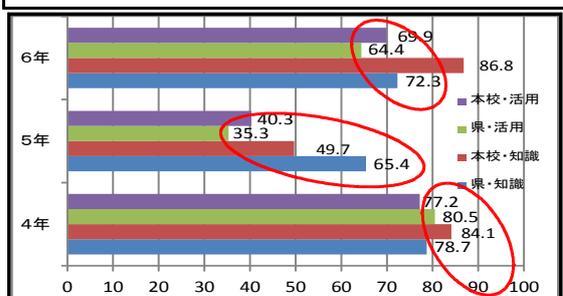
(2) 全国学力・学習状況調査、県学力調査の結果から

①H27全国学力・学習状況調査「国語：話す・聞く・書く」領域別正答率・全国との比較(5)



【全国学力・学習状況調査の結果(H27.4)】

②県学力調査 社会「知識と活用」(%)



【「県学力調査」の結果(H27.12実施)(4年生以上)】

考察

1 意識面の結果から

- ・地域に対する貢献への関心は、全国・県と比べて高く、6割を超えている。(1) ①
- ・蘇陽のことが「好き・大好き」と答えた児童が、どの時期の調査でも常に90%を超えている。(1) ②
- ・総合的な学習の時間の学習に対する有用感を感じている児童は、ほぼ100%である。(1) ③
- ・ふるさとと積極的に関わろうとする児童が増えていることがわかる。(1) ④

2 学力調査(全国学力・学習状況調査)の結果から

- ・本年度6年生対象の全国学力・学習状況調査「国語『話す・聞く、書く』」領域別正答率は、全国と比べてかなり上回っている。(2) ①
- ・平成26年度の県学力調査の社会で「主に『知識・活用』」に関する定着率を比較すると、4、5、6年「知識」が「活用」の定着率を上回っている。(2) ②

2 研究の成果

【仮説1】「ふるさとを大切に作る児童」の姿を目指して、授業づくりを工夫し、ねらいに迫るための思考ツールを工夫したことで、考え合う姿が活発化し、主体的な学習へとつながった。実践事例で記述したように、身近な人と関わることの楽しさやふるさとの伝統を守る人々の生き方に学ぶ授業づくりを行ったことで、ふるさと学習への有用感もさらに高まった。

【仮説2】「進んで考え行動できる児童」の育成のために、暮らしを見つめ表現する活動の日常化と授業での交流活動を工夫したことで、自分たちの考えを伝えようとする意欲が高まった。考えを交流することは、児童の考えを広げたり深めたりすることに役立った。それが自信となり、フェスタで堂々と発表したり地域行事へ主体的に関わったりする姿が見られるようになった。

【仮説3】「ふるさと」をテーマにG Tを開発、整理し可視化したことで、調べる際の見通しができ児童の学習活動が活発になった。また、教師も新たに人材を開発していく中で、地域の良さを見直したり児童の活動を活発にしたりする見通しをもつことができた。

3 今後の課題

【仮説1】各学年で付ける力をより明確にして、そよっ子のふるさと学習のカリキュラムの整理や精選を今後も進めていきたい。また、生活科での気付きや高まりを、総合的な学習の時間へと効果的につなぐなど系統性を大切にしたい取組を進めたい。そして、知識をいかして自らのくらしや、自己の生き方へと思いをめぐらし、ふるさとに働きかける実践力をさらに付けていきたい。

【仮説2】暮らしを見つめ表現する活動の日常化では、題材選びに課題が残った。意識の変容をはかるために、題材の整理をしていきたい。また、交流活動では、児童の気付きをさらに高めたり、事象を関連付けて考えたりできるようにしていく必要がある。そのために、交流活動の時間配分やポイントを絞った話し合いの方法を工夫をしていきたい。

【仮説3】地域で頑張っている人と児童との出会いを大切に、生き方を学ばせたり、聞き取らせていくそよっ子のふるさと学習を継続させていくために、連携協力できる環境づくりを工夫していく必要がある。また、授業のねらいを達成するため、G Tの効果的な活用の仕方を工夫していく必要がある。

おわりに

本校では、昨年度より「平成27年度第64回全国へき地教育研究大会熊本大会」の公開授業（平成27年10月16日）に向けて、生活科や総合的な学習の時間を中心とした研究を行ってきました。

研究を進めるに当たっては、「ふるさと学習」をテーマに研究を進め、研究指定が終わった後も取組が続くようにと考え、研究の方向性やめざす児童の姿について、職員一人一人が考えを出し合うことからスタートしました。

「ふるさとを大切にし、進んで考え行動できる児童」をめざす児童像に設定し、研究授業を中心に「そよ子のふるさと学習」に取り組んできました。研究を進めていく中で、わくわくしながら地域に出かけていく児童の姿、教室での振り返りで活発な意見を出し合う姿を見ることができるようになったことは、研究の大きな成果の一つだと考えております。また、昨年度の校外学習は27回、本年度は22回（研究発表会後も7回）、さらに、3学期も予定されており、この研究が継続した取組となっていることも研究の成果であると考えています。

しかし、本校の研究はまだ課題も多く残されています。研究の成果と課題を整理し、全職員で「ふるさとを大切にし、進んで考え行動できる児童」をめざし、研究を進めていきたいと思っています。

研究指定の終わった来年度が重要であると考えています。上益城教育事務所、山都町教育委員会の御指導を仰ぎながら、研究を進めていきたいと思っておりますので、今後とも御指導をよろしくお願いいたします。

参 考 文 献

- | | |
|--|-----------------------|
| 小学校学習指導要領解説 | 文部科学省 |
| 今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編） | 文部科学省、教育課程研究センター |
| 「伝え合う力」をつける国語科授業モデル | 明治図書 |
| 授業を磨く | 田村学 著 東洋館出版社 |
| 考え合う授業の追究 社会科・生活科・総合的な学習の時間を柱とした授業研究のあり方 | 東洋館出版社 |
| 気付きの質を高める生活科指導法 | 東洋館出版社 |
| 「対話」で広がる子どもの学びー授業で論理力を育てる試みー | 熊本大学教育学部附属小学校 他著 明治図書 |

研 究 同 人

【平成27年度】中山大美 前田至誠 松本照美 飯星光栄 松井由美 石田貴子 堀本ルミ
谷口哲也 佐藤順平 安竹恭子 小西晴香 今村扶美代 後藤真里奈 吉本昭子
柴田有佳利 木實美代子 春日智恵 工藤真喜子